

日本にはプロのオーケストラがいくつあるかご存じだろうか。現在、プロのオーケストラは23楽団（社団法人日本オーケストラ連盟）あり、そのほとんどは東京や関西などの大都市圏に集中している。政令指定都市以外の都市にある地方のオーケストラは、群馬、金沢そして、山形交響楽団（山形）の3つのみ。また、東北地方には、仙台フィルハーモニー管弦楽団と山響の2つしかない。

山響は1971年に、現在の創立名誉指揮者である村川千秋氏を中心に、準備オーケストラが組織され、翌年72年に東北ではじめてのプロ・オーケストラとして誕生した。設立当時から続いている活動の1つに、移動音楽教室（スクールコンサート）がある。小・中・高校の体育館に楽団員が出かけて演奏を行い、子供たちに生のオーケストラの演奏を聴いてもらう。日頃触れることのない本物のオーケストラの演奏を聴くことで、芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うことを目的としている。このスクールコンサートは、これまで山形県での開催がほとんどであったが、最近は文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」の委託事業として、新潟県、富山県、京都府などの学校にも出向き、1年間で約100の学校で公演した。

スクールコンサート開催の日には、スタッフや楽団員が、早朝から楽器をトラックに積み込み、会場に移動する。会場に到着すると、椅子やステージを設定し準備作業を行う。演奏が終わると楽器を片付けて、急いで次の学校へと向かう。かつては1日3回の公演を行ったこともあったようだ。このスクールコンサートを継続していくことは困難も少なくない。たとえば、限られた時間で少ないスタッフでの準備作業を行うのは大変であり、また会場となる体育館や講堂の音響環境は必ずしも良い所ばかりではない。しかし、スクールコンサートは、山響創立者村川氏の「オーケストラの演奏を聴くことで子供た

ちに生の音楽の感動を味わってもらいたい」という設立の狙いでもある。その思いを楽団員やスタッフが受け継ぎ「子どもたちに、このスクールコンサートでよい音楽を」と継続して取り組んでいる。

現在、山響ではスクールコンサートのほかに定期演奏会、企業などの依頼で行う一般演奏会、テレビ出演など合計すると、年間約180回演奏会を行っている。この演奏回数は、全国のオーケストラのなかで、東京交響楽団に次いで2番目に多い。

昨年11月に山響が受賞した「地域文化功労者文部科学大臣賞」は、全国各地域で芸術文化の振興、文

VALUE SIGHT

オーケストラは地方 山形が育んだ地域の 音楽文化を全国発信

いま、山形交響楽団（山響）が全国から注目されている。設立から今年で36年、これまでの芸術文化への取り組みが認められて、昨年「地域文化功労者文部科学大臣賞」を受賞した。最近には音楽監督飯森範親氏のもとで、新しい音楽文化を山形から発信しようと取り組んでいる。

化財の保護に尽力するなど、地域文化の振興に功績のあった個人や団体の功績をたたえた表彰である。山響は、地域音楽文化の振興とスクールコンサートなど、青少年の人間形成に寄与する芸術活動への貢

献を評価していただいたもので、表彰式には三宅高子理事長、音楽監督の飯森範親氏が出席して賞を受けた。このような評価をいただいたこと、そして36年間活動を継続できたのは、何よりも地域の方々の支えと、創立者村川氏の思いを受け継ぎ、多くの困難を乗り越えてきた楽団員とスタッフの努力によるものであ



飯森氏とモーツァルト「アマデウスの旅」の演奏メンバー

る。これまでに、齋藤茂吉文化賞、河北文化賞、サントリー地域文化賞も受賞している。

創立者の村川氏は村山市出身、山形南高等学校を卒業後、東京芸術大学で学び、指揮者として労音交響楽団、札幌交響楽団、京都市交響楽団、東京交響楽団などで活躍していた。郷里の山形で、プロのオーケストラをつくるきっかけの1つに、アメリカでの留学体験があった。当時、日本でのオーケストラ演奏はよほど有名なオーケストラの演奏会でなければ、会場が満席になることはなかった。オーケストラの演奏は、地方ではまだ身近なものではなく、敷居が

トがなかなか売れず、当時のスタッフは、仕事が終わった夜や休日にチケット販売に奔走したこと、また大規模な曲を演奏したいと思っても財政の理由から必要最小限の編成による演奏にならざるをえなかったことなどなど。

そのような山響を行政や地元の企業、そして地域の方々が支え、育ててくださった。定期演奏会のために宣伝活動をしてくださった地元企業、スクールコンサートや演奏会のために移動用のバスを提供してくださった地元企業や団体など。そして、楽団員とスタッフが「質の高い音楽を伝えたい」という思いが相俟って、山響はここまで成長した。

地域にプロのオーケストラがあっても、その地域に住んでいるとなかなかその良さに気付かない場合もある。自分たちの住む地域にオーケストラがあることで、ただ観客として演奏を聴くチャンスがあるだけではなく、地域のオーケストラと一緒に支え、育てていくことができる。ぜひ多くの方々に山響の活動をご支持、ご支援いただきたい。

今、山響は「食と温泉の国のオーケストラ」をキャッチフレーズとした、新しいチャレンジをスタートさせている。昨年からはまった「アマデウスの旅」は、モーツアルトの全交響曲を8年間かけて演奏する取り組みである。「モーツアルト実行委員会」が県内地域の支援者で組織され、多くの会員加入があった。また、ファンの方々と楽団員が触れ合える機会「オーケストラの日コンサート」も3月31日に予定している。

地方オーケストラを取り巻く環境は相変わらず厳しい。ただそれを悲観するだけでなく、山響にはこれまで山形の人々と積み重ねてきた36年という歴史があり、さらに山形で新しい音楽文化を創造するための取り組みが始まっている。今後、さらに山形の人々に愛されるオーケストラとして、地域の方々とともに新しい音楽を奏でていきたい。

(インタビュー・執筆：荘銀総合研究所・齋藤聖紀)

から

村山



社団法人山形交響楽協会
専務理事

堀田稔氏に聞く

高いものだった。しかし、留学先のアメリカでは地方の小さな町にもオーケストラがあり、演奏会には多くの地元の方々が訪れていた。それまで「音楽は都会でやるものだ」と思い込んでいた村川氏にとって、これは衝撃的な出来事だったようだ。

帰国後、村川氏は地方で音楽文化を育てるために、「山形でオーケストラをつくろう」と、一緒に活動してくれる仲間を集めた。71年には「山形交響楽団を設立しましょう」と趣意書を作成し、交響楽団結成への取り組みが始まり、翌年に念願の交響楽団が設立された。当時のことは、読売新聞山形支局編「どれみふぁ奮戦記」にも紹介されている。

設立はしたものの、村川氏をはじめ楽団員やスタッフは何度も困難を乗り越えてきた。米国から新進気鋭の演奏家を招いたこと、定期演奏会のチケッ

■ 堀田 稔 (ほった・みのる)

社団法人山形交響楽協会 専務理事
山形新聞社で編集、総務など担当、専務取締役。
山形テレビで社長を歴任。2006年より現職。
〒990-0041 山形市緑町1-9-30
山形県新築西通り会館内
TEL 023-625-2203・FAX 023-625-2205
<http://www.yamakyo.or.jp>